

# CONSERVATION VOLUNTEERS Vol. 12

発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）

特集	リーダーミーティング「人材育成プログラム見本市」 全体概要・講座紹介	p1
	米国シアトルのEarth corpsでの経験を通じて、ほか	p4
報告	リーダートレーニング研究会 地域を巻き込むには～ニューヨーク、モルディヴに学ぶ～	p7
お知らせ	リーダートレーニング研究会の日程、ほか	p8

## 特集 リーダーミーティング「人材育成プログラム見本市」

### ■ 全体概要

原愛子（NPO法人山村塾）

JCVN では、現場リーダーに求められるスキルについて、環境保全活動の現場の声を反映させ、仲間をまとめる、作業を進める、安全を管理する、課題を解決するという4つのキーワードを中心に人材育成プログラムを開発してきました。今回はその一部を、NPO・ボランティア関係者の皆さんはもちろん、企業や教育の現場で人材育成に関わる皆さんとも共有し、その活用法を考える場にしたと企画しました。

第1部は、「JCVN 人材育成プログラム見本市」と称して、1コマ60分～75分の講座を3回、各コマA・B2つの会場に分かれ、昼食休憩を挟みながら計6つの分科会を開催しました。JCVN の4人のトレーナー（大木本、小森、たいら、朝廣）が各会を担当しました。第2部は全体会として、各分科会の話や現場リーダーをテーマに全員でディスカッションを行いました。

メイン会場では、NPO 法人循環生活研究所の皆

さんがお茶コーナーを担当。色鮮やかな野菜のピクルスや奈良漬などバラエティ豊かなおやつを囲んで、みなさんの会話も弾んでいました。詳細の雰囲気は、本誌面でご参照ください。



#### 【開催概要】

主催：JCVN 後援：九州電力（株）  
日時：2016年2月11日（木・祝）10:00～16:30  
場所：福岡市中央区電気ビル本館地下2階会議室  
参加者：環境保全ボランティアや人材育成に関わる方 38名

## ■ 講座紹介

原愛子 (NPO法人山村塾)、平希井 (NPO法人循環生活研究所)

### ◇ ツールトーク (プレゼンテーショントレーニング)

【概要】講師：小森・朝廣、時間：10:00～11:00

#### 【内容】

参加者は、NPO 循環生活研究所、森づくり団体 (水源林ボランティア、唐津松原) のメンバーなど。最初に、プログラムである「ツールトーク」の紹介を行いました。大切なのは「安全に楽しい活動を行うこと」。これが担保されないと、継続して参加できない。次も参加しよう！と思われません。安全で良い作業を遂行するために、現場における道具にまつわるプレゼンテーション技術を学びます。

参加者は、5種類の道具(スコップ、トウグワ、剪定はさみ、小刀、のこぎり)の中から1つ、自分の担当する道具を選びます。説明するのは次の5つのポイント、「名前」、「使い方」、「安全」、「運び方」、「しまい方」です。講師からの説明と模範演技の後、1分間、各自でシミュレーションし、実演いただきました。



参加者の感想は、

- ✓ すぐに使えるトレーニングでした。発表する際のポイントを自分でもチェックすればよかったです。
- ✓ 実際のシチュエーションを想定して解説されている方がいました。とても内容が分かりやすく、楽しめました。
- ✓ 道具の説明を通じ、様々なことが分かりました。説明の工夫次第で伝わり方が変わり、安全な活動につながると思いました
- ✓ Nice presentation. Easy to understand the using of the tools.

講師より

ツールトークのトレーニングはプレゼンテーションの技術です。発表の練習をして、チェック表で経験者に評価してもらい、ボランティアの現場で経験をつむことが大切です。道具も身体も傷めない活動のために、この訓練は大切です。

### ◇ チームゲーム

#### (雰囲気づくりとチームビルディング)

【概要】講師：大木本・平、時間：10:00～11:00

#### 【内容】

アイスブレイクとチームビルディングについて、実践でどのような場面で用いるか、そのコツなどを紹介しました。下記は実施プログラムです。

- ① ピザ作り (3～4分)
- ② 自己紹介 (10分)
- ③ 物まねゲーム (10分)
- ④ 誕生日順 (2分)
- ⑤ 質問ゲーム (10分)

講師からは、最適なアイスブレイクを選ぶときに考える条件要素として、目的、対象者(どのような集団なのか)、スペース、時間、安全面、人数などへの配慮が説明されました。

参加者の感想は、

- ✓ 皆さん、ちゃんと自分をアピールされていた。自己紹介も難しかった。表現力のなさを反省。
- ✓ 人への質問は難しい。もっと人に関心を持つとうと思いました。
- ✓ 最初は年甲斐もなく・・・と思いましたが、面白く、楽しかった。

### ◇ 現場リーダーのスキルとは

#### ～スキル総括表をもとに

【概要】講師：朝廣・たいら、時間：11:20～12:20

#### 【内容】

参加者は18名。まずは全員で大きな円を囲んでのアイスブレイクからスタート。連想ゲームを使った自己紹介で、リーダーとして難しくも重要な「メンバーの名前を覚える」ことを、ゲームを使って楽しく行う方法を紹介しました。次に参加者のリーダーシップが必要となるゲーム(ヘリウムチューブ)を行い、グループ内でどのような行動や役割分担があったかを振り返りました。2つのゲームを終えたところで、リーダーシップに関するモデルを紹介。リーダーが配慮すべき「3つの要求(個人・作業・チームの要求)」について説明。その後3人ずつに分かれてのバスタークでは、お互いの「リーダー体験」について自由な雰囲気でのディスカッションを行い、リーダーの難しさや失敗談などの意見が交わされました。最後に、

環境保全活動の1日の基本的な流れのなかで求められるリーダーの役割と、「スキル総括表」について紹介を行いました。

#### 【参加者の感想】

- ✓ 里山田園保全活動リーダーに限らず伝える内容でした。まとめられていて、わかりやすいと思いました。
- ✓ リーダーにとって必要なスキルがわかった。そのスキルを得るための手段も聞いてみたい。たとえば、平等に話せるスキル。
- ✓ 民主的なリーダーでも、さまざまなキャラクターのリーダーがいる。mustのスキルをどう身につけるか知りたいです。
- ✓ ロジカルに考えることを後回しにしていたので、改めて大切だと感じました。チームリーダーの役割とリーダーシップ、そしてフォロワーシップの価値観が変わりました。
- ✓ シチュエーションによって求められるリーダー像（モデル）はかなり変わってくるだろうなあ。

#### ◇リスクアセスメント実習

【概要】講師：小森・大木本、時間：11：20～12：20

#### 【内容】

子供達との作業を想定し、下記の流れでリスクアセスメントを行いました。

- ①自己紹介+ここ最近で遭遇した危険な思い出を2～3名で共有
- ②リスクアセスメントの全体像について説明
- ③リスクアセスメントの方法と実習

方法の説明を聞き、5名ずつのグループである事例をもとに考えられる危険・頻度・危険度を出すワークを行った。ひとりで考えるよりもいろんな人（経験値の違い）と考えることで、安全に関する理解、知識が深まります。最後はディスカッションを行い終了しました。

#### 【参加者の感想】

- ✓ 次回から取り組みたいと思います。
- ✓ 日頃の活動の中で、リスクを考えた上で行動することで未然に防げることが多々あることに気づきました。

#### 【講師より】

リスクアセスはプログラム作りと同時にいきましょう。毎年恒例の行事であれば、前年のリスクアセスメントを修正し使用できます。本プログラムは安全で楽しい活動の要の要素です。

#### ◇循環の仕組みをつくる

#### （暮らしの中の循環をデザイン）

【概要】講師：たいら・朝廣、時間：13:30～14:45

#### 【内容】

まず始めに、パワーポイントで「循環の暮らし」の紹介。NPO 法人循環生活研究所の理念やこれまでの活動を紹介しながら、参加者と一緒に、循環のある暮らしとない暮らしの違いなどを考えました。

次に、「コンポストのある暮らしを考える」ワークショップを、6人ずつの2チームに分かれて行いました。テーブルに広げた模造紙の上で、(地域を構成する要素の)カードを並べながら、どうすれば地域のなかで「コンポストのある暮らし」ができるのか、地域で循環を回すための人・モノの流れを考えます。人をどのように巻き込むか？楽しい仕掛けを考えてみようと呼びかけました。

その後、それぞれのチームのワーク結果をシェアしました。

Aチームは、個人宅からでた生ごみを堆肥にし、行政で借りた畑で使い、そこでできた野菜を買ってもらおうという流れをつくりましたが、参加者からは「お金がからむと流れを考えるのが難しくなった」という意見がありました。

Bチームは、家庭～畑～社員食堂のあいだで生ごみ・堆肥と野菜を循環させる流れを考えました。

このプログラムの位置づけとは、社会の中でそれぞれ(の構成員が)どういう役割を果たしていくか？を考えることにあります。

#### 【参加者の感想】

- ✓ 生ごみの堆肥化、まずは個人から。
- ✓ ワークの目的や前提がもやとしたままでした。ビジネスモデルなのか、現状モデルなのかなど。
- ✓ 経済活動とボランティアの関係性とその違いをきちんと学ぶ大切さに気づいた！
- ✓ 循環のモノの流れは考えやすいが、お金の流れがイメージしにくいと思いました。
- ✓ つながり、循環を作るのは難しいけども、うまく回る輪を作らねば。
- ✓ 最初からいろいろ聞くのではなく、自分で考えてみるととても難しい。いかに普段、他人事で考えているか認識した。コミュニティのつながりも思いつかなかった。

## ◇課題解決ワーク

(いざというといリーダーはどう判断する?)

【概要】講師：小森・大木本、時間：13:30～14:45

【内容】

様々な場面においてリーダーは、決断をしなければなりません。何かあれば、後から修正や謝罪を行っても良いです。一番困るのは、緊急時にリーダーの判断が曖昧だったり、遅かったりすることです。下記の流れでリーダーの課題解決ワークを疑似体験しました。

①自己紹介 (3分)

②課題解決ワーク (20分) 1グループ4～5人

自分の持ち時間で自分に渡された課題をチー

ムに説明。チーム内でその課題に関してディスカッションし、最後にリーダーとして決断を紙に書いていきます。

【参加者の感想】

- ✓ 判断力は短時間で難しい・・・
- ✓ 若い人のリーダーと年上のサブリーダーの関係が難しい・・・
- ✓ リーダーのイメージがあまり良くない
- ✓ 相談相手いないリーダーはつらいだけ。
- ✓ 意見を共有することで新たな気づきを得た。
- ✓ リーダーの権限を強くすることでメンバーの依存も高くなる。リーダーを育てながら権限範囲を明らかにするのが重要。

## ■米国シアトルのEarth corpsでの経験を通じて

大木本 舞 (NPO法人トチギ環境未来基地 事務局長)

環境保全活動のリーダーを育成しているNPO団体がアメリカのシアトルにあります。

*Everyone can grow to be an effective leader. Leaders inspire the group toward common goals, model integrity, communication and commitment, recognize and bring out the richness in all people, empower leadership in others, motivate through appreciation, mature and grow through practice. Truly effective leaders lead by example.*

{誰もがリーダーになることができる。リーダーはチームの目的に誠実に向き合い、対話を重ねること。他人の良さを引き出し、仲間のリーダーシップを発揮できる場をつくること。感謝と共に意欲を高めること。そして経験を通して成長していくこと。真のリーダーはほかのメンバーにとってのお手本となるような姿勢を示す。}

初めてのセッションで団体がもつリーダーシップの思想、この言葉を聞きました。様々な学習の場やイベントの際、常にこのフレーズが使われており、理想のリーダー像を描くのに自然と役立つことを今でも覚えています。

EarthCorps (アースコア) では、アメリカからだけでなく世界中の若者が、環境保全活動を通してリーダーシップと環境保全活動を学ぶプログラムを運営しています。プログラムの源流は、世界恐慌時のニューディール政策のひとつで、失業

対策として若者が国立公園などを整備するために取り組んだ事業です。時代と共に形を変えながら現在まで続き、毎年20,000人以上の若者がアメリカの自然環境を整備するために働いています。この活動は、ナショナルサービスと位置付けられています。EarthCorpsには、1～12月までアメリカ人が20名程度、6～12月には海外からの11名が加わりチームが編成されます。行政からなどの委託を受けて、鮭の生息環境の保全、外来種の除去、そして、緑地の整備を行っています。参加する若者には生活費が支給されます。

私はトチギ環境未来基地の団体の設立から関わり3年間事務局で働いた後、2013年6月から1年間EarthCorpsでの研修を経験しました。トチギ環境未来基地は、EarthCorpsのConservation Corpsプログラムの仕組みを日本につくるために設立したからです。本場のプログラムを学び、ど



ボランティアイベントで土を運んでいる様子

う日本で展開していけるかを探ることが目的でした。具体的には、6月～12月までは、Corps（コア）メンバーとして、アメリカ、ポリビア、日本の7人のチームで、毎日現場に行き、整備活動を行いました。そして1～5月はインターンとしてプログラムコーディネーター、寄付、広報の各スタッフの業務を補助し、団体のマネジメントと若者の育成トレーニング方法を実践的に学びました。

この経験を通じて、①自分自身がグローバルな視点をもったリーダーとして、チームをまとめる技術を得たことと、②ミクロとマクロでみたときの効果的な環境保全活動を行う必要性の2点を学びました。まず、EarthCorpsが大切にしているのは、「Learning by doing（実践的な学び）」です。3週間のオリエンテーションでは「だれもがリーダーシップを発揮したリーダーとして作業に取り組む。」ことを前提としていて、毎日の現場で活かせるヒントがありました。団体の基本的な情報や使命をしっかりと学ぶ場があったからこそ、作業中に住民から尋ねられたときにも、EarthCorpsの代表の一人として、対応することができました。また、チーム内では、毎週、道具管理、振り返りのシェア、お楽しみなどを進行する役割があり、チームの様子をみながら貢献できるのもおもしろい仕組みでした。金曜日のAll Corps MTGというスタッフ、メンバー全員が集まるミーティングでは、1週間の出来事を共有していきます。Appreciation timeでは、感謝の言葉を伝え、一人ひとりの心遣いや役割を称える時間として活用されていました。リーダーシップのスキルを評価するときには有効なのは、項目ごとに数字で判断するチェックシートです。結果も数値でまとめられるため、客観的に本人も認識できます。ただ、一人ひとりのリーダーシップを多面的に評価し、

向上を促すには、数値だけでは測りきれない成長の過程や他者評価も欠かせません。これらをカバーするために、リーダーとの面談や全体のミーティング時に変化や成果のストーリーを認める場がありました。

次にEarthCorpsでだからこそ、グローバルな視点をもつことの重要性と可能性を感じました。環境保全活動を行うことは、目の前の目標、たとえば外来種を除去することと、大きな目標、本来の生態系を戻し、鮭を守ることで漁業などの産業の発展にもつながることがあります。多国からの参加者と一緒にアメリカという異国にいて、多様な価値観と視野を得ました。隔週ある学習の時間では、「持続可能なエネルギーを生み出せる建築」という先駆的事例の見学。他にも、「異文化理解やジェンダー」に関するワークショップも行われました。シアトルの風土は、ボランティア理解が進み、参加者を巻き込み、海外とのネットワークも広がりやすい。そのような強みがあるように思われました。

トチギ環境未来基地も、アジアからの長期ボランティアや、企業のグループボランティアなど、様々なボランティアと活動します。グローバル人材の必要性が高まっている今だからこそ、現場でのボランティア活動が異文化理解や交流促進に役立ちます。EarthCorpsのエッセンスを運営に取り入れながら、日本版Conservation Corpsの仕組みを進めています。今後、どこかの地域で長期滞在型のボランティア活動をつくりたいという団体があれば、応援できるNPOとして発展していきたいと考えています。今後も、日本の若者が自然を守る担い手として活躍できる環境を整えていきます。

## ■リーダートレーニング見本市を終えて

志賀 壮史（JCVN理事／NPO法人グリーンシティ福岡）

毎年2月11日の恒例となったリーダーミーティング。JCVN主催となった2012年以降は、ロングトレイルや海岸林保全、災害ボランティアなど様々なテーマで開催してきましたが、軸足となっているのは、ボランティア活動の「現場リーダー」。毎年、異なるフィールドや活動分野を話題にすることで、新たな参加者や連携相手と出会うことができました。

今年度は原点に戻るような気持ちでJCVNの中心的な取り組みである「人材育成プログラム」をテーマに据えたのでした。そのねらいには、環境保全NPOのノウハウを企業や他分野のNPO等にも発信すること、その上で交流・連携先を増やしたり、JCVNの研修の提供先を増やすことができました。

ふたを開けてみると参加者数は関係者を含めて38人と、これまでで最も少人数となりました。

一方でその顔ぶれを見ると、企業や他分野のNPOなど多様なセクターからご参加をいただいています。前半の研修プログラムが運営しやすさや、参加者同士で互いに交流しやすかったことを考えると、今回のような内容・人数規模での開催意義や可能性を十分に感じる事ができました。今後、より多くの企業等の民間セクターを巻き込んでいくのが課題です。

全参加者38人の内訳は一般参加17人、学生5人、JCVN関係者・関連団体17人です。また、前半の人材育成プログラムの参加者はいずれも11~18人と適正でした。参加費収入は¥17,000-。あわせてお茶コーナーに設置した寄付箱には¥7,819-いただきました。ありがとうございました。ご寄付いただいた皆様には「里山讃歌(重松敏則作詞作曲)」のCDを差し上げました。ぜひご愛聴ください。

事前準備では広報不足の反省が大きく、チラシ作成やFacebookでの告知・シェアは1ヶ月を切っただけになりました。関係者間の打合せ不足もあり、当日スタッフの「現場力」で乗り切った印象があります。その背景をたどると、多忙な理事のみでネットワーク組織の運営をしていることや、年度末の開催といった原因が見えてきます。今後、運営体制の見直しや協力者の募集などを検討していきたいところです。

前半の見本市で提供した人材育成プログラムは「ツールトーク」「チームゲーム」「現場リーダーのスキルとは」「リスクアセスメント実習」「循環の仕組みをつくる」「課題解決ワーク」の6種としました。他にも候補がありましたが、JCVNの研修において定番で実施するものを中心に、他セクターや他分野の活動にも応用しやすいことを考えて選びました。参加者が希望の実習を選ぶ「アラカルト形式」は申込のバラツキ方を見てもふさわしかったようです。一方で、スタッフのふりかえりでは「一日の研修として流れがあったかどうか?理解が深まっていったか?」「育成する人材の全体像が伝わったか?」という疑問や、実施講師からは「毎回、顔ぶれが変わるので関係づくり等でくたびれた」という課題が挙げられました。

実習それぞれの満足度は高く、「もっと知りたい」「他のスキルについてはどう学ぶ?」といった感想もいただきました。現場リーダーや人材育成について学びたいというニーズや手応えを感

じることができ、今後、通常の研修形式でリーダーミーティングを実施することも検討するといいかもかもしれません。

後半の全体ディスカッションでは、一日の感想のシェアからフリーディスカッション、そして米国の環境保全団体「EarthCorps」についての話題提供を行いました。参加者同士による感想や気づきのシェア、フリーディスカッションでは「違う思いを持ったメンバーをどうまとめるか?」など、各自の現場での課題をもとにした話が出てきました。研修やテキストのかたちでお伝えできるノウハウもありますが、現場でしか解決できない悩みや苦労もまだまだ残されています。研修やテキストでは解決できない悩みや苦労には、きっと現場リーダーやそれに近い立場にいる人同士で交流し学び合うことが効果的です。そんな場の一つとしてリーダーミーティングの必要性を感じる時間となりました。

人材育成の参考事例としての「EarthCorps」の話題提供。日本の環境保全団体と比べて参加者数や予算規模が桁違いですが、リーダーについての考え方やその人材育成をどのように仕組みとして組織内に落とし込んでいるかは、多くの団体の参考になったと思います。

終了後、参加者からは「環境保全活動の経験が無くても内容は理解できた」「参加費1,000円は安過ぎ、1~2万円とっていい研修」との感想がありました。全体として、環境保全NPOのノウハウを企業や他分野のNPO等にも発信し、交流・連携先や研修の提供先を増やすこと、という当初のねらいにつながる内容となったと言えます。

リーダーミーティング開催後の2月18日に行った理事によるふりかえりでは、今回の結果を踏まえた今後の可能性について話題が出ました。その中の一つが「研修事業のパッケージ化」です。



例えば、JCVNと関連NPOそれぞれとのコラボで研修プログラムのセットをつくり提供していくことが考えられます。

現在は、依頼があったら講師を派遣するという形式で、主に環境保全団体向けに現場リーダーやリスクマネジメントについての研修を行っています。JCVNが掲げる「安全で楽しい活動」を広めるためには真っ当なやり方と言えますが、一般の認知度はなかなか上がっていません。

現場リーダーについて学べる機会を一般に向けてオープンにしておくことが多様なセクターが関心を持ち、参加することにつながるのではないかと企業等の社会貢献やチームビルディング

のテーマとしても求められているのではないかと聞いたことが話題となりました。

JCVNでは、今後も環境保全団体同士の交流や人材育成を支援しつつ、他セクターとの連携を深めていく活動ができたらと思っています。引き続き、皆様のご参加・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、会場のご協力をいただいた九州電力様、什器やお茶コーナーなどの設営にご協力くださった皆様、当日ご寄付をいただいた皆様、そしてご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

## 報告 リーダートレーニング研究会

### ■循環するまちづくり～ニューヨーク、モルディヴ国の事例を通して～

平 由以子 (JCVN理事/特定非営利活動法人循環生活研究所理事長)

昨年、視察訪問したモルディヴ国、ゼロウェイスト宣言したサンフランシスコとニューヨークの現状を研究会において話題提供、対極ともいえる2カ国の循環型の暮らし、「生ごみ」「循環」をキーワードに日本の可能性について考えました。

南アジアに位置するモルディヴは約2000からなる美しい島。200の島に居住、うち99の島がリゾート島です。近年、海面上昇が話題になったことが有名ですが、1泊10万円を超える高級ホテルと島住民のつつましい暮らしが背中合わせ「観光ごみ」や住民のライフスタイルの変化による廃棄物「循環しないごみ」「海洋ごみ」が大きな課題としてあがっています。今回、NPOとしてアジア3R政府間会合のサイドイベントであるNGO会合を協働開催し、現地のNGOとの情報交流やワークショップ、小中学校

での堆肥づくりのレクチャー、44の島の廃棄物管理担当者に対するコンポスト学習会に講師として参加し、その内容を共有しました。

サンフランシスコやニューヨークには大都市での仕組みや、行政、NPOの役割、そして住民へのインセンティブ等、日本でもすぐに即採用できそうな項目も多く、研究会の参加者からも具体的な質疑が多く寄せられた。中でも街中での生ごみの回収、コミュニティガーデン、屋上菜園の活用等、人々が生ごみ循環をファッション化している活動に関心が集まりました。

#### サンフランシスコのルール変遷

2006年	発泡スチロール利用禁止
2007年	レジ袋有料化 ゼロウェイスト
2008年	プラスチック製レジ袋使用禁止
2009年	生ごみ分別収集義務化



諸事情や国の成り立ちなど大きく違うところも多い一方で、社会的な基盤、住民理解、協働の必要性、資源をどう大切に取らなければならないかが重要項目であることを垣間見ることができました。開発途上国において”生ごみ”はおよそ70～90%、先進国では30～40%を占めています。これを資源として取り扱い、地域経済に再

投資していくか。また、協力関係で適正な技術支援をすることで時間を省略できるからこそ、今後さらに技術移転を伴う人材育成が重要であると実感しました。引き続き研究会でも、暮らしと環境問題を結びつけるしかけ「地域を巻き込むには」について議論を深めていくことを考えています。

## お知らせ

## イベント・ボランティア情報

### ●JCVNリーダートレーニング研究会

JCVNでは、隔月で環境保全リーダーのためのプログラム研究会を実施しております。リーダーの方、関心がある方、私たちと一緒に活動したい方のご参加お待ちしております。

◇4月21日(木)

#### スキル総括表を用いた研修プログラム開発

昨年度作成した、スキル総括表を用い、研修プログラムなどの検討ワークショップを行います。

講師：未定、進行：未定

とき：18時半～20時半

場所：未定

参加費(会員・学生)無料 (非会員)1,000円

◇6月16日(木)

#### 安全管理 KPT とヒヤリハットを考える

安全管理は定期的を考えるべきテーマです。今回はヒヤリハットを中心に考える会とします。

講師：志賀、進行：小森

とき：18時半～20時半

場所：未定

参加費(会員・学生)無料 (非会員)1,000円

### ●定時総会のご案内

特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワークの第8回総会を下記の日時、場所で開催します。会員の皆様にはご参加いただきたくお願いいたします。

日時：平成28年5月19日(木)17:00～18:00

場所：九州大学大橋キャンパス2号館4Fコア室  
(福岡県福岡市南区塩原4-9-1)

### ●JCVNの仲間を広く募集しています！

あなたの支援が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる環境保全活動をめざした団体のネットワークづくりの力になります。入会申込書をご送付いたしますので、事務局までお問い合わせください。

- ・個人正会員(¥10,000/年)
- ・個人賛助会員(¥5,000/一口以上)
- ・団体正会員(¥20,000/年)
- ・団体賛助会員(¥10,000/一口以上)

JCVN理事をはじめ、環境保全活動の専門家のノウハウが詰まった会報が、年に3回お手元に届きます！また、メールマガジンでもJCVNが開催・協力するイベント情報等を随時ご案内いたします。

活動への寄付も受け付けています。環境保全団体のネットワークづくり、リーダー育成支援のため、皆さまのご協力をお待ちしています！

[会費・寄付振込口座]

番号：01760-9-122407

名称：日本環境保全ボランティアネットワーク

## CONSERVATION VOLUNTEERS 12

■発行日：平成28年3月17日

■発行頻度：年3回

■発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク(略称：JCVN)

■事務局：〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2-202

tel/fax: 092-215-3966

e-mail: jcvn@greencity-f.org